

# 東北地方向けの多収はとむぎ品種「はとゆたか」

作物機能開発部 資源作物育種研究室 電話019-643-3655



## 研究のねらい

はとむぎの栽培は東北地方に多く、主に早生・短稈種の「はとじろう」が栽培されているが、収量性の向上が課題となっている。そこで、東北地方に適し、成熟期が早く、多収な品種を育成する。

## 研究の成果

- ①「東北1号」に「奥羽4号」を交配し、系統育種法により選抜・固定し、新品種「はとゆたか」(旧系統名:東北3号)を育成した。岩手県および宮城県内での栽培が予定されている。
- ②「はとゆたか」の穀実収量は「はとじろう」、「中里在来」より多く(表1、図1)、百粒重は両品種並である。お茶加工適性や焙煎粒の外観が優れる(表1)。
- ③成熟期は「はとじろう」より4日遅く、「中里在来」より5日早い、“やや早生”である(表1)。
- ④草丈は「はとじろう」と同程度の短稈で、「中里在来」より短い(表1)。
- ⑤「はとじろう」に比べて葉枯病にやや弱い(表1)。

特性\品種	はとゆたか	はとじろう	中里在来
出穂期	7月29日	7月28日	8月2日
成熟期	10月6日	10月2日	10月11日
草丈(cm)	175	172	190
着粒層(cm)	76	69	75
葉枯れ病発生程度	微~少	微	微
倒伏程度	微	微	微
穀実収量(kg/a)	44.9	35.7	38.8
百粒重(g)	120	11.9	11.9
脱粒性	易	易	易
お茶加工適性*	やや良	—	—
焙煎粒の外観品質*	優る	—	—

\*業者による「はとじろう」との比較(2002,2003年)

表1 「はとゆたか」の特性(東北農研 1999~2003年)

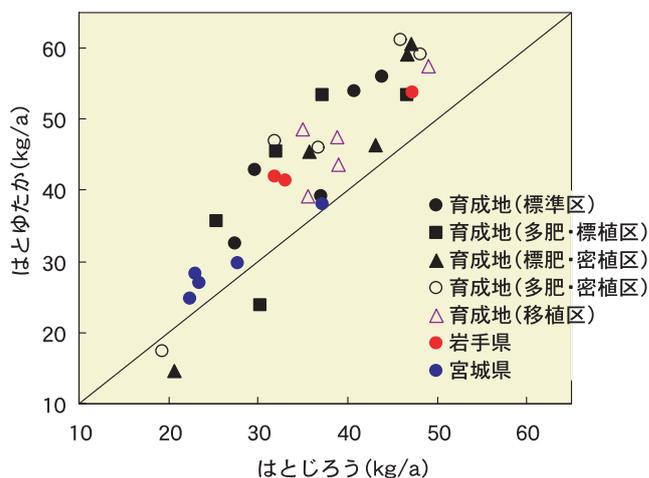


図1 「はとゆたか」と「はとじろう」の穀実収量(kg/a) 育成地(東北農研)は1999~2003年(各5試験区)、岩手県は2001年~2003年、宮城県は1999~2003年の試験成績。

## 成果の利活用

- ①東北地方の栽培に適する。
- ②密植により多収となるが、倒伏することがあるので留意する。
- ③葉枯病発生時には連作を避け、発生初期に薬剤(ロブラル水和剤)散布する。
- ④「はとじろう」等と同等に脱粒し易いので刈遅れにならないように注意する。
- ⑤はとむぎは他家受精しやすく、他の品種やジュズダマと容易に交配する。したがって、品種の特性を維持するために、採種栽培においては他の品種やジュズダマから隔離して栽培する。